

## 神舞の途絶えた背景

もともと有明町原田にあった都萬神社は、天文九年の火災で焼失し、現在の場所に移されたそうです。その際に神社の記録は、すべて焼失し、明治44年の大風により神社は倒壊し、一切の記録が不明となりました。このことにより、神舞について、いつごろ、どこから伝わっているのか正確な記録が残っていないかもしれません。

言い伝えによると、神舞の祭りでは、神舞面をつけて夕暮れから夜通し舞続け、日の出を見て舞い納めていましたが、太平洋戦争で完全に途絶えてしまったそうです。

## 神舞の復活まで

幸いなことに野方照日神社で現在も踊られている神舞は、明治26年に都満神宮から伝えられており、神舞の起源、十九手の神舞の舞言、用具の作り方や手ほどきが記されている『神舞解説書』に基づいて忠実に現在まで踊り続けられています。

これに着目し、中野会長自ら、2年半をかけて県内外に残る神舞を調査・研究し、『神舞解説書』を分かりやすく活字化した『伝統芸能解説書』をつくることともに復活の準備を行いました。



▲商工会青年部のみなさん  
次世代に引き継ぐ第一歩となりました。



▲薙刀舞



▲田之神舞



▲弓舞



▲四人鬼人舞



▲照日神社春祭り

野方の照日神社では、毎年3月の第2日曜日に春祭りを行なっています。その際には、家内安全・五穀豊穡などを祈願した神舞が、神舞保存会（会長川原辰雄さん）により奉納されます。

途絶えた時期もありましたが、踊り手が高校生や小学生に引き継がれ、伝承活動に取り組みんでいます。

今後、両保存会の活動により、いつまでも伝統芸能が継承され続けることを願っています。

## 照日神社春祭り



▲中野孝喜会長



▲平成21年11月2日に国の登録有形文化財に登録された都萬神社